

本 攪 寺 杼 貝 (83), 2017

## 幾つかの和歌山県串本町産軟体動物の 特大の貝殻

Shin Kubota: Some giant molluscan shells from  
Kushimoto Town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459

京都大学フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所

現生の海産の軟体動物 6 種（オオコシダカガンガラ；シマメノウフネガイ；センジュガイモドキ；タガヤサンミナシ；マガキガイ；ミノガイ）の特大の貝殻について、最近、本誌で報告した（久保田，2017a, b）。これらに続き、今回、和歌山県串本町での打上採集物で、前岩崇氏が近年に発見し、昨今の黒潮貝類同好会の定例開催中に無料配分された中で見つかった 3 種（タガヤサンミナシ、ベニエガイ、マツバガイ）の特大の貝殻について記録する（図 1）。

これまで日本最大のマツバガイは、鹿児島県産の殻長 86 mm、殻幅 7.2 mm の生体だったが（築地新ら，2002）、本個体（図 1, 右）は打上で貝殻が多少削られていたが、両者はほぼ同大だった。ベニエガイはさらに成長できたはずであるが、貝殻に 1 個の穿孔（裏側から測定して直径 2 mm）があり、肉食性の巻貝に捕食されていた（図 1, 中）。タガヤサンミナシは同県産個体（久保田，2017a: 殻長 94.5

mm, 殻幅 45 mm) とほぼ同大であった (図 1, 左)。

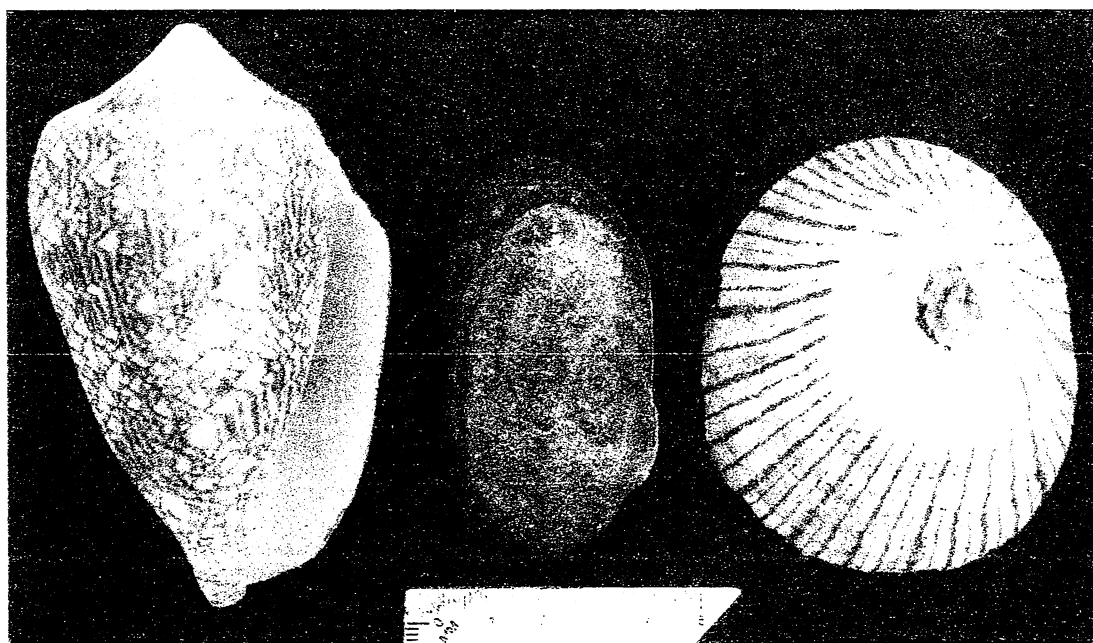


図 1 . 和歌山県串本産の特大の貝殻 . タガヤサンミナシ

(左 : 殻長 90 mm, 殻幅 48 mm) ; ベニエガイ (中 :  
殻長 75 mm, 殻高 39 mm, 1 個の穿孔に留意) ; マツバ  
ガイ (右 : 殻長 84 mm, 殻幅 71 mm) .

#### 参考文献

久保田 信 . 2017a . 最近入手した特大の貝殻 . 本攪寺杼貝  
(81): 31-33.

久保田 信 . 2017b . 和歌山県串本産の巨大なシマメノウフ  
ネガイ (カリバガサ科) . 本攪寺杼貝, (82): 29-30.

築地新光子・築地新チサ・久保田 信 . 2002 . マツバガイ  
(軟体動物門, 原始腹足類) の日本最大の野生個体  
南紀生物, 44(2): 106.